

## 2014 ふゆトピア・フェア in 釧路

1月23日(木)～24日(金)の2日間、釧路市観光国際交流センター他で、ふゆトピア・フェアが開催されます。当イベントは、今回で10回目を数え、地域の除排雪体制の現状や課題、冬期の交通障害への対策など、地域のくらしに密着したさまざまな取り組みに対する意見交換を行い、寒冷地独特の自然を活かした冬期観光の活性化など、国内外への情報発信を通じて、寒冷地の魅力あふれる地域づくりに役立つことを目的に実施されます。詳細については、右記ホームページで随時情報をお知らせしていますので、ご覧ください。

◆開催日時：平成26年1月23日(木)～1月24日(金)

◆会場：

- シンポジウム・研究発表会・展示会  
釧路市観光国際交流センター(釧路市幸町3-3)
- 除雪機械展示・実演会  
釧路市観光国際交流センター付近

<http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/fuyutopia/top.html>

■主催：2014ふゆトピア・フェアin釧路実行委員会(北海道開発局、北海道、釧路市、(一社)日本建設機械施工協会、(社)雪センター、(一社)北海道開発技術センター、(一財)北海道道路管理技術センター、東日本高速道路株式会社北海道支社、(一社)北海道建設業協会、釧路建設業協会)

## 第13回「野生生物と交通」研究発表会のご案内



「野生生物」と「交通」に関わる問題は、異分野間にまたがる学際的な研究テーマであるため、その情報交換の機会が極めて少ないのが現状です。この機会に、多くの方にご参加いただき、「野生生物」と「交通」に関する知識の情報交換の場として、ぜひご利用ください。現在、パネル展[1/24(金)縮切]、聴講[2/12(水)縮切]、懇親会[2/12(水)縮切]の申し込み等を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。



「野生生物と交通」ウェブサイト

<http://www.wildlife-traffic.jp>

### 開催概要

- ◆開催日時：2014年2月21日(金)10:00～
- ◆会場：札幌コンベンションセンター  
(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)
- ◆主催：(一社)北海道開発技術センター
- ◆共催：(一社)エゾシカ協会・(財)北海道環境財団  
(一社)シーニックバイウェイ支援センター
- ◆協力：エコ・ネットワーク

※講演論文集は、研究発表会後もエコ・ネットワークにて購入できます。(送料無料)  
※論文集購入に関するお問い合わせはエコ・ネットワークまで(TEL 011-737-7841)

### お申し込み・お問い合わせ

(一社)北海道開発技術センター内「野生生物と交通」研究発表会係  
●担当：向井・永井 ●TEL:011-738-3363 ●FAX:011-738-1889  
●Email [wildlife@decnet.or.jp](mailto:wildlife@decnet.or.jp) ●ウェブサイト <http://wildlife-traffic.jp>

### 編集後記

明けましておめでとうございます。今年もdec monthlyにお付き合いのほど、どうぞよろしくお願いいたします。さて、1月11日(土)、チカホの北一条地下通路Cスペース(12番出口付近)にて、ウインターライフキャンペーンの第3弾となるイベントが開催されます。イベントでは、冬の体力アップや防滑グッズなど冬の暮らしに役立つ情報を紹介。お近くにお越しの際はぜひ立ち寄りください!(M.K)



# dec monthly

[www.decnet.or.jp](http://www.decnet.or.jp)

ニューズレター デックマンズリー  
一般社団法人北海道開発技術センター

2014.1.1  
vol.340



一般社団法人  
北海道開発技術センター  
佐藤 馨一

●今の特集…  
第29回 寒地技術シンポジウム2013 開催報告 前編

●お知らせ  
2014ふゆトピア・フェア in 釧路・「野生生物と交通」研究発表会開催のお知らせ

## SHOULDER TO SHOULDER TO OPEN A WAY

～人は皆兄弟、力を合わせてさあ、新しい道を拓こう～

平成25年10月からdecはセントラル札幌北ビル  
(北区北11条西2丁目)に移転しました。

これまでのビルとは異なり3Fに全員が集合しており、その眺めは圧巻で新しいdecが始まったことを実感させます。昨年はJR北海道の事故やデータの改ざん問題で、鉄道に対する道民の信頼が大きく損なわれました。なかでも測量野帳を粗末に扱い、データを書き換えた行為は技術者倫理に違反するものです。

下の写真は小樽交通記念館の前庭におかれたクロフォードの姿です。彼は小樽―札幌―幌内間の鉄道を建設するために雇われたアメリカの土木技術者です。トランシットを前にしたクロフォードは正式な礼服、燕尾服を着ています。土木技術者が大地を測量する行為は天皇陛下への謁見のように権威があり、大事であることを示しています。

私はクロフォードの次の言葉がすきです。  
“SHOULDER TO SHOULDER TO OPEN A WAY”

decは寒地開発の理想を高く掲げ、それを具体化する技術革新を進めることをお約束して、新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶  
明けましておめでとうございませう。  
平成26年が皆様にとって  
ご多幸の年であることを心から祈願いたします。

